



馬房でくつろぐエトワールドパリ。顔はやっぱり姉に似ている!?

## 小島友実の あの馬の STORY



### エトワールドパリ

松元茂樹厩舎に所属するエトワールドパリは2017年の愛知杯ターメイトSを勝ったマキシマムパリの半妹。姉同様に出資したり、注目されている会員さんも多いのではないだろうか。

「マキシマムパリと同じ芦毛でね。馬体や歩く姿がよく似ていますよ。父がクロフネに替わって、しかりとした体つきをしていますね。楽しみです」

このように、エトワールドパリが7歳募集される際、松元師も期待されていました。

昨年9月に栗東トレーニングセンターに入厩し、デビューからの2戦は芝のレースを走りましたが7着、8着。「好位にはつけられない。芝も悪くはないけど、切れ負けしてしまう内容。クロフネ産駒なので、タートでの走りを見たい」という判断から、3戦目からはタートに転じました。初のタート戦になった12月の中京戦では変わり身を見せ3着。その後は4着、5着とやはりタートに適性を見せました。

「3戦目以降の走りを見ると、現状ではタートがいいですね。ただ、4戦目、5戦目は掲示板には来たものの、1着とは離されてしまつた内容。調教助手からも『普段の調教では気持ちが変わる方向に向いてしまっている』という話があったので、6戦目の小倉戦からはチークピーシーズを着けてみる事にしました」

この効果もあり6戦目と7戦目は連続2着と初勝利まであと一歩に迫りました。

「6戦目の小倉戦では実戦で初めて使ったチークピーシーズの効果がありました」

した。藤岡佑介騎手からも『集中して走れている』という報告でしたから、7戦目の小倉戦では気合いが入り、今日は勝てるかなと思つたけど、ゲートで躓いてしまった。それで出して行つたし、直線入口でもバランスを崩し、それが最後の脚に影響している、着て感でしてね」

8戦目は距離短縮を試みて、3月18日の中京タート1400戦へ向かったエトワールドパリ。結果は7着でした。

「本当は2番手につけたかったのですが、他の馬が速く走つたレースが出来ませんでした。レース後は大きなダメージはないですが、一度リフレッシュ放牧へ出します」

レース後、松元調教師はこのように話していました。

話は前後しますが、8戦目の前の3月1日、松元厩舎へ入つてエトワールドパリに会つて来ました。お話を伺つたのは担当する米盛拓持ち乗り調教助手です。

「昨年9月に入厩した時から担当しています。マキシマムパリは担当した事がないので詳しくはわかりませんが、芦毛だし顔は似ていると思います。お姉さんは最初、飼葉食いで苦労したと聞いています。でもエトワールドパリの場合、全然問題ないです。というか、姉に比べると馬体が大いさ、結構食べます(笑)。普段ですか? 大人しいし、可愛いですよ。乗り手には比較的従順で、物覚えも良いです。パドックへ行くとスイッチが入つてグイグイと歩きますが、入れ込むほどではないですね」

松元厩舎へ行つた時、引退レースとな

る中山牝馬へ向けて調整中だったマキシマムパリも馬房にいたので、姉妹を見比べてみました。すると、エトワールドパリの方が首さしや顎に黒っぽい毛が入っていました。気になつて3歳春に撮影したマキシマムパリの写真を確認したところ、芦毛の色が今より全体的に濃かったです。芦毛馬は年々、色が白くなっていくと言いますから、エトワールドパリもこれから少しずつ、芦毛が淡い色に変化していくかもしれません。

気になるエトワールドパリの今後について、松元調教師に伺いました。

「本来は1400mでも対応できると思いますが、現状では中距離が良い印象です。ですから帰厩後の状態にもよりますが、5月中旬から後半にかけてのタート1700~1800m戦に向かう予定です。この位の距離なら先行力を活かせると思いますからね。まだ馬体には緩い部分があり、今後成長していけば終いも踏ん張れるようになるのではないのでしょうか。姉同様に能力がありますからまずは一つ勝つてそして上のクラスでも戦える馬だと思えます。私も定年が近くなりましてので来年2月定年予定、エトワールドパリの成績を少しでも上げて、次の調教師へ良い形で引き継げるようにあと1年、しかりと育てていきたいですね」

マキシマムパリが引退してしまつた今、妹を応援する方も多いと思います。まずは待望の初勝利を期待したいですね。

(取材:3月1日、4月11日)

#### profile

グリーンチャンネル「トラックマンTV」(毎週金曜 19:00~20:30)、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」ほか競馬ファンにはお馴染みの顔。平日は地方競馬、週末は中央競馬、そしてプライベートでも競馬三昧の日々を送る。本業のアナウンスのほかにも、競馬ブックのコラム「小島友実の好奇心keiba それいけ現場」の連載など活躍の場を広げている。